

あじさい新品種の安定生産技術の確立

要約

ポップシリーズにおいて、育苗用土の窒素成分量が 180mg/L（使用肥料：マグアンプ K）の場合、株の揃いや根張りがよく、生育中の枯死は少ないが、きらきら星共通用土と同等の窒素成分量 600mg/L（使用肥料：マグアンプ K+エコロング 413）では、株の生育にバラツキが大きく、生育中の枯死や分枝数の減少がみられた。育苗用土に含まれる窒素成分量は、180mg/L 程度が望ましいと考えられた。

○ 展示のねらい

あじさいポップシリーズの初期育苗に、きらきら星共通用土を用いると生育のバラツキが大きく品質が安定しないことから、育苗期の適切な管理方法（用土の窒素成分量）を検討する。

展示内容

	ポット上げ用土	備考
供試区①	担当農家用土 +エコロング 413 (14-11-13) (100 日) 1.5g/L	
供試区②	担当農家用土 +エコロング 413 (14-11-13) (100 日) 3g/L	共通用土と同等の窒素成分量
対照区	担当農家用土のみ	農家慣行

※ 育苗期間中の肥培管理は、住友2号(10-5-8)：りん安(7-20)=1:1を、2000倍で1週間に1,2回(8/6～9/20)、1000倍で1日おき(9/20～10/20)。

○ 主な成果

表1 20株中の枯死株数 (R7.2.13調査)

	キャンデーポップ	スターポップ	ジュエリーポップ
供試区①	1株	1株	1株
供試区②	1株※	2株	2株
対照区	1株	0株	0株

※ 分枝数1本の株が4株みられた

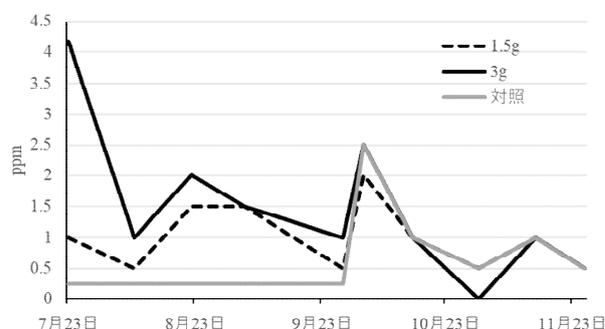


図1 排出液中のアンモニア態窒素濃度

- ・用土の窒素成分量は、供試区①が 390mg/L、供試区②が 600mg/L、対照区が 180mg/L、きらきら星共通用土が 621mg/L である。
- ・定植時における枯死株数は、対照区がもっとも少なかった（表1）。
- ・排出液中の硝酸態窒素、アンモニア態窒素、リン酸、カリウム濃度については、アンモニア態窒素が処理区による差が最も大きく、生育への影響が示唆された。（図1）。

○ 今後の方向性

ポップシリーズの育苗用土の窒素成分量は、きらきら星共通用土の 1/3 程度で生育が優れると考えられた。

育苗用土の元肥量および追肥管理について検討する必要がある。

実施機関： 上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 鹿沼市
 問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315